

モニターツアー アンケート回答（一部抜粋）

○満足度 とても満足 16人

○とても満足を選んだ理由

- ・イルカウォッチング、お弁当、ボランティアガイドの案内がとても良かった。
- ・熊本市内から参加したが、天草の歴史を全く知らなかった。富岡城のことも知ることができ歴史の奥深さを感じた。
- ・イベントの手作り感がよかった。
- ・丁寧に準備した気持ちが伝わりました。
- ・一つ一つにガイドの人から説明があり、それぞれの時代や歴史的背景を知ることができ、とても良かった。食事もボリュームがあり、とても満足。

○滞在時の体験項目として興味があるもの

- ・おいしいスイーツが食べたい。
- ・温泉が好きなので、どんな温泉地があるか知りたい（宿泊してみたい）。
- ・絵付け・手びねりを体験したい。
- ・みかん狩り、レタス苗植え、収穫体験をしたい。
- ・磯だまりで、海の生物の観察をしたい。
- ・温泉や別荘での宿泊体験もしてみたい。
- ・若い人にも興味をもってもらえるよう、簡単でわかりやすい内容のツアーはどうか。

○ツアーイベントへの意見

- ・集合時間をお昼ごろにして、夕陽を見て宿泊のプランも良いと思う。
- ・イルカウォッチングを苓北でできるとは知らなかった。もっとみんなに知ってほしい。
- ・素晴らしい整備の行き届いた城址・景観を生かしたイベントができれば良いと思う。
- ・歴史上とても意味のある富岡城を軸に、テレビで紹介されると一気に知名度も上がると思う。
- ・Youtubeチャンネルなどで県外の人にも観光情報を発信するといい。

とで、より良い観光商品の造成を目指しています。
アンケートでは参加者16人全員が「とても満足」と回答。イベントを丁寧に準備したことを評価する意見がありました。

こうした外から目線の意見は、私たち町民が町の魅力を再発見するきっかけにもつながります。

観光で訪れた人に、苓北町はどう映っているのか。
島原・天草一揆の舞台となった富岡城から望む美しい景観やおっぱい岩など、苓北町にある豊かな自然を新発見するために「れいほく新発見！体験ツアーリズム」が11月6日㊥開催され、熊本市や長崎市などから16人が参加しました。モニターツアーでは、街歩き

ガイドツアー▽富岡ビジターセンターおよび苓北町歴史資料館の見学（ガイド付き）▽郷土料理のお弁当▽苓北町物産館でのお買い物▽イルカウォッチング——を実施しました。
モニターツアーの終了後にはアンケートを実施。観光客はどこに満足するのか、何を求めているのかを深掘りするこ

特集

シンカする れいほくの観光

外から目線を知る

モニターツアー

美しい街並み、美しい景色、美味しいごはん——
苓北町にあふれる観光資源をどう生かすか。
訪れた人が「この町に来て良かった」「また来たい」と思えるまちづくりの実現のために、観光資源に磨きをかける取り組みを特集します。

※このモニターツアーは環境省の国立・国定公園での利用拠点を活用した自然体験プログラム推進事業を利用して実施しました。

地域活性化起業人
那須 弘生さん



外から目線の声とは――

苓北町は昨年6月に㈱ジャパックスと※地域活性化起業人事業の業務協定を締結しました。同社からの派遣で「あまくさ苓北観光協会」の組織強化に取り組む那須弘生さんに話を伺いました。

※地域活性化起業人とは

三大都市圏に所在する企業などの社員が、そのノウハウや知見を生かし、地方への人の流れを創出できるよう取り組む総務省の制度のこと。

異郷を感じる

苓北町の魅力

鹿本町（現在の山鹿市）出身の那須さん。実は社会人になるまで天草を訪れたことはなかったそうです。

社会人になり、初めて訪れた天草に「異郷（故郷とは違う他国のような）の雰囲気を感じた」と当時のことを振り返ります。

現在、単身赴任で生活をしている那須さんは「苓北町の日常が私にとって異日常であり、魅力的に映る

地域活性化起業人のこれまでの取り組みと今後の方向性（3カ年の計画）

- ▶ 令和3年度（助走）
 - ▷ 観光協会の現状と課題の把握
- ▶ 令和4年度（離陸）
 - ▷ 補助金を活用した事業実施
 - ▷ 高校、大学との連携による人材育成
 - ▷ 情報発信の支援
- ▶ 令和5年度（水平飛行への体制づくり）
 - ▷ 令和4年度実施した事業のフォローアップ、販売体制づくり
 - ▷ 高校、大学との連携の継続可能な体制づくり
 - ▷ 観光協会組織強化の具体的な着地支援

ます」と話します。

また、「毎日の海の表情が魅力的で、時間帯でも表情が変わる。思わずカメラを手に取りたくなります」と日ごと、時間ごとに異なる表情を見せる姿にも魅力を感じています。

「あつて当たり前」が実は魅力の宝庫

起業人が苓北町に着任して約1年。那須さんが抱く苓北町の課題は「地元の自然素材の多くが町民の皆さんにとって『あつて当たり前』のものの」と思っていることと話します。

地域間競争でもある観光。一人でも多くの観光客に訪れるためには「当たり前と感じている素材を、熱量を持ってPRする力が必要。もつとガツガツいった方がよい」。7月に天草拓心高校マリン校舎で行われた「苓北町観光講

座」では、自ら講師となり、その場にいる誰よりも情熱的に苓北の魅力伝えました。

これからの

苓北町

今後の苓北町の観光発展には「観光振興を通じた町民皆さんの満足実現」と「苓北ファンの創造」が重要だと那須さんは話します。

起業人の任期は3年間。この取り組みを継続的なものとするために、人材育成と推進母体の体制づくりを進めていきます。



高校生に熱心に観光講座を行う那須さん



実施期間 11/13日～1/13金

朝ごはんプロジェクト始動

お店の個性を生かしたこだわりの朝ごはんが完成

観光に訪れたら、その土地ならではの食を味わいたい――。そんな観光客のニーズに応えるため「れいほくの朝ごはん」プロジェクトが始まりました。観光商品としての朝ごはんを企画するため10月6日、シニアソムリエの仲田晃子さんを招いて試食会を実施。仲田さんがレタスやミカン、アオサなど町の特産品を活用し創作した料理を、参加した8つの事業者らが試食。素材の特徴に合わせた料理を試食することで朝ごはんメニューのアイデアを吸収しました。

その後、ホテルや民泊・カフェなど町内の10事業者が店舗ごとの個性を生かした料理を作り、11月10日にお披露目会を行いました。試食をした人からは、「味がしみこんでいておいしい」「朝ごはんが豪華だと嬉しくなりますね」と満足の声でいっぱい。

旅館や民泊での食事はもちろん、店頭でのテイクアウトが可能な商品もあり、目的に合わせた朝食を楽しむことができます。

苓北の魅力の一つとなる「朝ごはん」。訪れる観光客の満足度に繋がることを期待されます。

れいほくモン！カード誕生！



朝ごはんプロジェクトの開催にあわせ新たな取り組みも。苓北町を愛してやまない苓北民、その名も「れいほくモン！」がカードになりました。

カードは全4種類で、町内の宿泊施設や飲食店など対象施設で1,000円以上の買い物をすれば1枚進呈されます。

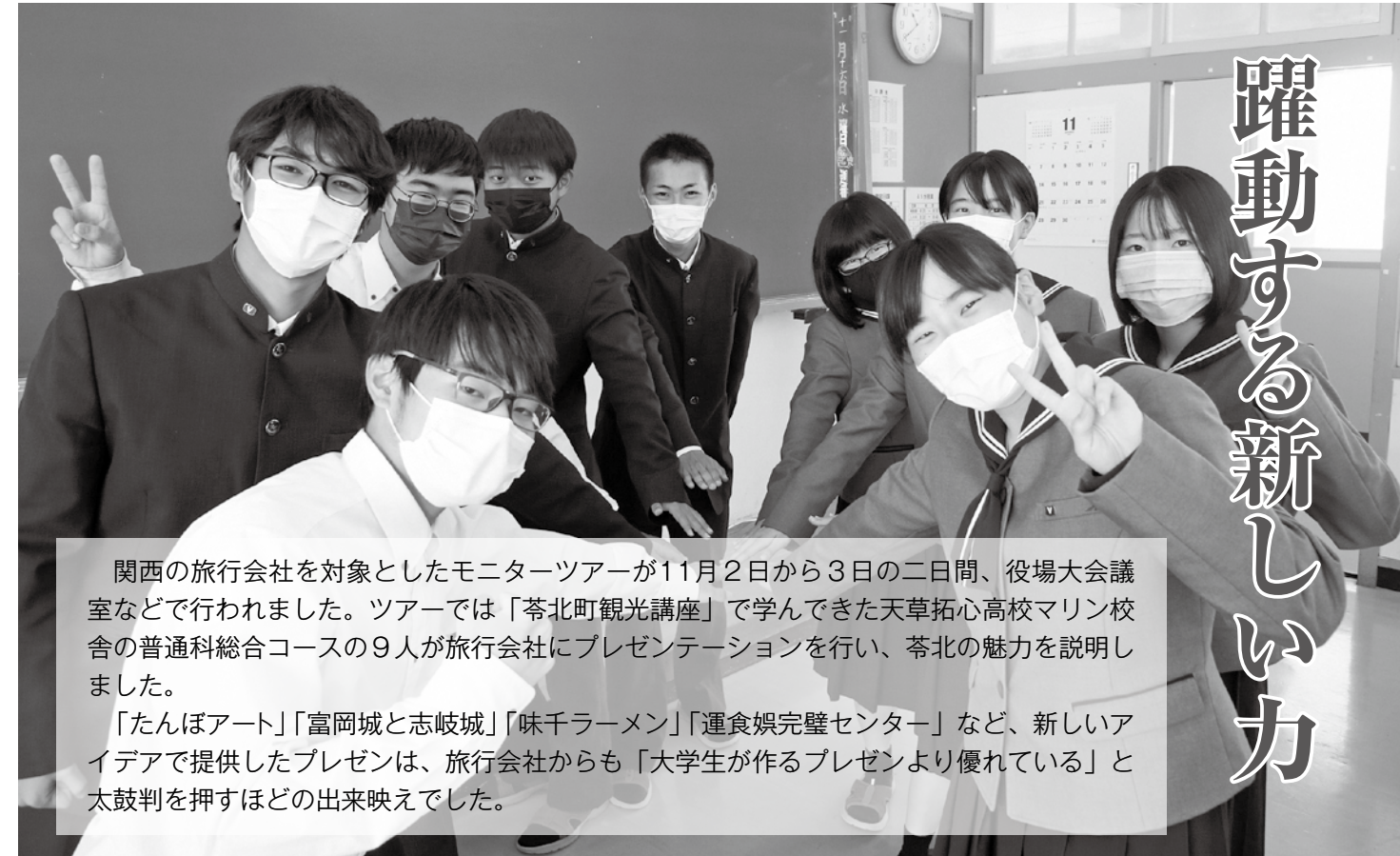
町内の事業者を周遊していただくことを目的とした面白い試みで、別の角度から苓北町を盛り上げます。

カードは全部で4種類／



苓北を盛り上げる事業者が4枚のカードに

躍動する新しい力



関西の旅行会社を対象としたモニターツアーが11月2日から3日の二日間、役場大会議室などで行われました。ツアーでは「苓北町観光講座」で学んできた天草拓心高校マリン校舎の普通科総合コースの9人が旅行会社にプレゼンテーションを行い、苓北の魅力を説明しました。

「たんぼアート」「富岡城と志岐城」「味千ラーメン」「運食娯完壁センター」など、新しいアイデアで提供したプレゼンは、旅行会社からも「大学生が作るプレゼンより優れている」と太鼓判を押すほどの出来映えでした。

苓北と向き合った 3カ月間

学官連携事業で7月から実施されたこの取り組み。生徒らはプレゼンまでの約3カ月間、夏休みを利用して現地に出向いたり、放課後や自宅で資料を作成したりするなど、授業を超えて新しい観光商品の開発に取り組みました。

ほとんどが苓北町に住むマリン校舎の生徒の皆さん。苓北を調べるなかで「自然豊かで夕日が綺麗」「建物は多いけど、お土産を買うところはどこにあるんだろう」と感じたそうです。

「観光商品の組み合わせで孤立してしまわないか」「事実だけでなく自分の考えを取り入れる」「浮かんできたアイデアをどう取捨選択するか」。生徒同士で意見を交換し、時には先生のアドバイスを受けることで観光商品を造成しました。



意見を出し合う生徒ら

旅行会社からの 意見を聞き学ぶ

プレゼンを終えた生徒たち。旅行会社からは「大学生が作るプレゼンより優れている」と高い評価を受けました。

その一方で、旅行会社からは「インパクトのある食べ物がない」「計画した商品が天候不良などで中止となったとき、代替案などはあるのか」などの意見もありました。



旅行会社に行った
プレゼンの様子

さらに磨きをかける

7月から新たに始まった学官連携事業は、今回のプレゼンがゴールではありません。天草拓心高校マリン校舎では、総合的な探究の時間で来年度以降も継続し、今回のプレゼンでの意見を反映し磨きをかけることで、更に進化した観光商品を造成できるように挑戦を続けます。

苓北を愛する情熱が

町の魅力に変わる――

シンカのその先に

「夕日がきれい」「食べ物がおいしい」「お城から眺める景色がいい」「イルカに会える」。苓北町はたくさん魅力で溢れています。

地域活性化起業家の助言とともに▼モニターツアー▼朝ごはんプロジェクト▼高校生への観光教育▼サンセットクルージング――などさまざまな事業に取り組み、新しい観光商品の造成を目指す苓北町。

地域間競争の激しい観光業界でも、「また苓北に来たい」と思ってもらえるために、新たなアイデアや外から目線のアドバイスを吸収し、より魅力のある観光地になるために――。

今回の取材を通し、情熱を持った人たちが苓北をPRしようと取り組んでいるのを感じました。

観光で訪問するのは人、携わるのも人です。人が情熱を持って町の当たり前をアピールすることで、訪れる人たちの満足度の増加につながるのかもしれない。

